



たより



第1回 不登校対策子ども未来サポート研修会

今年度より「不登校対策ハーモニーハート研修会」を「不登校対策子ども未来サポート研修会」と改め、“不登校児童生徒の**早期発見、早期解決、未然防止**、そして**ともに学び合う**”ことを目的として研修を行っています。今年度のテーマは“**不登校児童生徒の保護者への具体的な支援方法について**”です。

6月17日(月)に第1回研修会を開催し、講師として、昨年度に引き続き 森川 泉先生(三重県スクールカウンセラースーパーバイザー)をお迎えし、『**不登校児童生徒を抱える保護者の具体的対応 ~子どもたちへつなぐ~**』という演題でご講演いただきました。

冒頭、「相当子どもたちの心が疲弊している。現場の先生たちも傷ついているのではないか。」という言葉から始まり、現場での子どもや保護者との関わりに ^{プラスアルファ} + α になればとお話いただきました。



Doing ではなく Being !

何かをするのではなく、
そこにいるだけでいい。



疲弊している
子どもの心…

どれだけ こちらの
心が揺れているか

森川先生のお話より

- 子どもや保護者と関係を深めることで、葛藤やその状況が見えてくる。背景に見えることに、こちらが**どれだけ心を揺らしながら、どれだけ子どもと関われるか。**
- 教室を飛び出す、暴言を吐く、物を投げる…**ルール破りは、意味のあるプレイ。**人間関係を確かめている。「たとえ私が投げて、あなたは拾ってくれますか？」と、信頼のできる先生であるかを確かめている。
- 「悪いからダメ」ではなく、**そうせざるを得ないことを分かっているか**が、人間として、そして**教員としての器。**
- 意味が分からないと不毛のまま、**意味があったと分かると対応が違う。**どれだけ意味を探せるか。
- 指導に失敗したときには「ごめん」がある。失敗はチャンス!!**できないときには「ごめん」で仕切り直す。一生懸命やって失敗する姿を見せられる。知識ではなく、失敗したときに**どのように立ち上がっていくか、復活していく様を見せる。修復力が鍛えられる。**
- 定期的に(可能なら週1回、20分程度)家庭訪問し、関わりを深めていく。
- 事例検討等を通して、学校全体でその子どもにどう関わるか情報交換しておく。**全体で動く!**



森川先生が紹介された「河合隼雄語録 カウンセリングの現場から」を購入しました。貸し出しを希望される方は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

第2回 不登校対策子ども未来サポート研修会

8月20日（火）には第2回研修会を開催し、こちらも昨年度に引き続き 瀬戸 美奈子先生（三重大学教育学部教授）をお迎えし、『**連携を促進する保護者面接の持ち方**』という演題でご講演いただきました。

講演は、瀬戸先生が実際に担当された事例をもとに、「**不登校を理解するポイント**」を中心に、グループで意見交換を行いながら進められ、最後に「**チーム援助**」「**保護者面接**」についてお話しいただきました。



Best よい ★
Better な援助を ★



ズしから始まる **チーム援助！！**
人によって違う判断の**ズし**を大切にしよう。
共有とは、さまざまな考え方を知ること。

自分の考えは**いったん保留**。

瀬戸先生のお話より

- **きっかけ≠原因**…不登校は見た目では分からない。必ずしも、きっかけと原因が一致するわけではない。本人のその時の状況によって違う。
- 挫折経験より **頑張った達成感**のほうが、不登校支援の手がかりになる。
- **宿題のやり残し**…人にはその時期その時期で取り組むべき**過程**がある。きちんとその過程をやっているかどうか。やり残しはないか。
(※心理学者エリクソンのアイデンティティとライフサイクルによる)
- **共有≠一致**…チーム援助の上で情報、判断、価値観の共有は必要だが、共有とは考えを一致させることなく、さまざまな考え方を知ることである。
- **ズしを大切に**する…保護者からの見方、担任からの見方など、一致させようとしない。違う人と組む大変さはあるが、楽しむ。言葉の表面に右往左往しない。
- **自分の考えをいったん保留**する…自分の判断を伝えようとすると、どちらが正しいかという話し合いになる。自分の考えは、いったん保留することが大事。
- **学校でできる援助の提案と限界を伝える**…学校でできるメニューを用意し、提案して選んでもらうとよい。

【不登校を理解するポイント】

(配付資料より)

①子どもが持っている力

- ・ 対等な友人関係を作る力
- ・ 学力
- ・ 自己表現・意思表示の力
- ・ 頑張った経験や活躍する場
- ・ 発達的な問題
- ・ 宿題のやり残し

まだ
分から
ない

②急性か慢性か

ある

ない

③環境

- ・ 家庭環境のサポート
- ・ 学校環境
- 〔 先生と本人のマッチング
学級での居場所

④休んでいる時の状況

- ・ 登校に対する葛藤
- ・ エネルギーの消耗



第3回不登校対策子ども未来サポート研修会は、教育研究所研修員報告会を兼ねて、1月頃開催する予定です。

